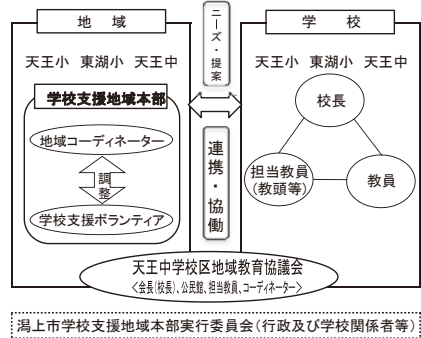


目指せ「オール天王」地域の子供は地域で育てる！ 地域と学校をつなぐ応援団として

秋田県潟上市		● 活動名 天王中学校区地域学校協働活動		● 関係する学校名 潟上市立天王中学校、潟上市立天王小学校 潟上市立東湖小学校	
開始年度	平成 24 年度	学級数	16 学級	児童・生徒数	389 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 □その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	マルカ三浦醤油店、(有)クイック、天王グリーンランド株式会社、等
ボランティアの数	登録人数 291 人	属性	地域住民、保護者、大学生、等		
参考 URL	http://shisetsu.city.katagami.akita.jp/school/tennou-es/ http://shisetsu.city.katagami.akita.jp/school/touko-es/ http://shisetsu.city.katagami.akita.jp/school/tennou-ih/				
● 連絡先	潟上市教育委員会学校教育課		☎ 018-853-5371		

● 体制図



● 活動の概要・経緯

平成 24 年 4 月、同一中学校区内の小学校 2 校と中学校 1 校を活動単位としてスタートした。各校に 1 名ずつ配置された「地域コーディネーター」がつなぎ役となり、「地域の子供もは地域で育てる」という共通の意識の下、学校、地域、家庭が連携・協働する体制の構築を図っている。

義務教育 9 年間の健やかな育ちに向けて、コーディネーターと学校が、またコーディネーター同士が情報交換を密に行い、小中連携による学校支援活動の充実にも取り組んでいる。活動は、授業の補助、読み聞かせ、環境整備、登下校の安全指導、クラブ活動・学校行事の補助のほか、子供たちのためにできることは何かを考え、更なる活動の活性化を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 地域の人材・団体等との連携・協働
 - ・市内味噌醤油事業所等と連携した、味噌づくりから味噌汁づくりまでの一連の体験活動の計画と実施
 - ・農家の協力による稲作体験と地域住民等の幅広いボランティア参加
 - ・地域の事業所における 4 日間の職場体験やボランティア活動の生徒受入れ
 - ・ボランティアグループによる小学生への読み聞かせ
- コーディネーター同士の連携・協働
 - ・コーディネーターの企画で実施した、他市中学生との交流事業における「味噌玉づくり」体験
- 子供の安全確保
 - ・「スクールガード」等による登下校の見守り（通年）
- 子供たちの地域支援活動
 - ・東湖八坂神社例大祭への大幣振等としての参加、市盆踊り大会参加等、地域貢献活動

【実施にあたっての工夫】

- ・職員室にコーディネーターの座席を設け、教職員とコミュニケーションを図ることができるようにし、学校のニーズを把握している。
- ・コーディネーター同士が連携を深め、統括コーディネーターを中心にいつでも顔を合わせて情報交換したり共に活動したりできるようにしている。
- ・地域教育協議会で学校運営の方向性を共有したり、授業等の際は学習のねらいや留意点について教職員と共通理解を図ったりしている。
- ・ボランティアの充実感や市民の関心を高めるため、学校報や市広報等で取組を広く紹介している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・関係団体の青年部から高齢者まで、幅広い年齢層の参画が得られた。コーディネーターの積極的な働き掛けによって地域との連携の輪は更に広がった。平成 29 年度は農家の協力を得て、大豆栽培にも取り組むことになっている。
- ・地域住民が、学校の教育や学区の小・中学生への関心を高めることができた。また、小・中学生は、地域の人、産業、文化等に新たな魅力を発見し、地域に対する愛着心を深めた。地域との連携・協働による活動は、地域と学校両者の成長につながっている。
- ・学校報等により学校と地域の連携・協働の意義が理解・共有化されつつある。平成 30 年度のコミュニティ・スクール設置に向けて準備を進めている。

● その他

- ・学習支援は主に家庭科（調理実習、ミシン掛け等の被服実習）、国語科（書写）、クラブ活動、総合的な学習の時間に地域の方が関わっている。
- ・教職を目指す大学生が中心となって、月 4 回（平日放課後 3 回、土曜日夜 1 回）、公民館を会場に中・高校生を対象とした学習支援を行っている。（「寺子屋てんのう」）
- ・中学生の職場体験に約 30 の地域の事業所等の協力を得ている。



田んぼの先生、地域の方と一緒に稲刈り



コーディネーターによる企画「味噌玉づくり」を通じた中学生の交流

ポイント

高齢層だけでなく大学生や青年層など多彩な年齢層の参画が得られている様子が良く分かります。コーディネーターの拠点が職員室にあるということも注目ポイントですね。